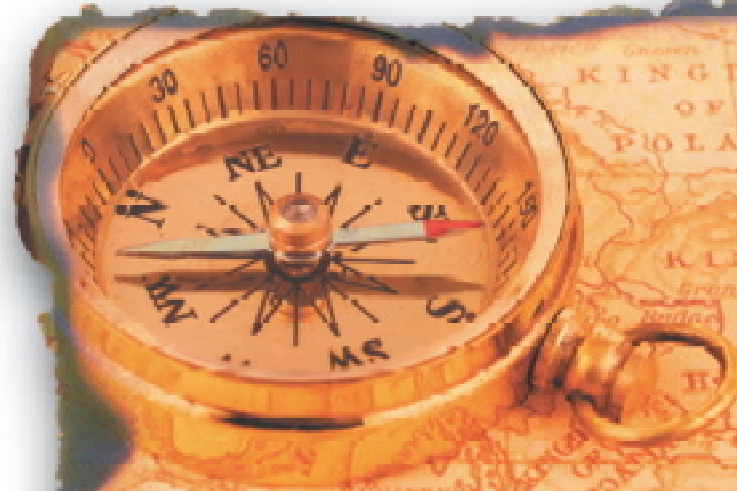


文化遺産のチカラ

佐久は各地で縄文や弥生の遺跡が見つかった。それは古くから人々の営みが行われてきた住みやすい土地であったという証。後の時代でも神社仏閣など多くの文化遺産が残されていて、先人のチカラ、歴史のチカラを感じ取ることができる。



【北西ノ久保遺跡出土の埴輪】
まとまった数の埴輪が出土したのは県内ではここだけ。



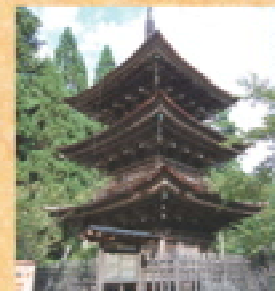
【下吹上遺跡】
昭和51年に発見された約4000年前(縄文時代)の集落跡。



【三河田大塚古墳】
高さ5m、直径30mの佐久地方では最大の円墳。



【八幡神社 旧本殿高良社】
1491年建立。
室町時代の特徴的な美術が現れている。



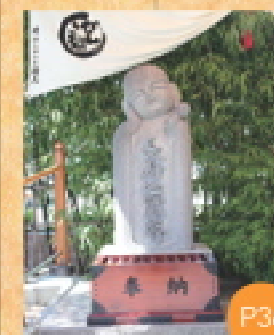
【新海三社神社】
三重塔および東本社は室町時代の建築で国の重要文化財。



【龍雲寺】
鎌倉時代の1312年に建立された曹洞宗の寺院。



【貞祥寺】
1521年に前山城主・伴野貞祥が開山した古刹。



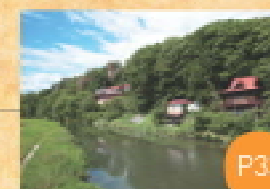
【びんころ地蔵】
平成15年建立。
健康長寿のまち・佐久のシンボル。



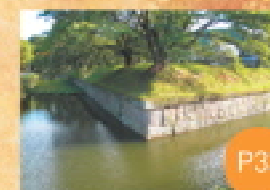
【池田満寿夫 陶壁画「佐久讃歌」】
郷の力強さが未来への希望を抱かせる作品。



【C56型蒸気機関車】
「高原のボニー」と呼ばれ、小海線を駆け抜けた。



【鼻顔稲荷神社】
400年以上前に創設された日本五大稲荷のひとつ。



【龍岡城五稜郭】
函館とここにしかない、星型の様式城郭。



【旧中込学校】
現存する学校建築では日本最古クラスの愛洋風建築。



【中山道望月宿・茂田井間の宿】
酒蔵や土蔵が並ぶ町並みは江戸時代の情緒が残る。



【五郎兵衛用水跡】
市川五郎兵衛が私財を投じて築いた農業用水。

【西近津遺跡】弥生時代としては国内最大級の堅穴住居跡が出土した。

佐久のチカラ

縄文時代

弥生時代

古墳時代

奈良時代

平安時代

鎌倉時代

室町時代

江戸時代

明治時代

昭和時代

平成時代

令和時代

文 化 遺 産
CULTURAL HERITAGE

歴史の”証人“ 佐久の文化遺産

佐久市文化財保護審議会会長 清水岩夫さん

佐久市域には数多くの文化遺産があり、それを保護、保存活動を行っているのが佐久市文化財保護審議会。そこで会長を務めるのが佐久市誌の編集にも携わった清水岩夫さん。

文化財への関心を持つきっかけになったのは、子どものころ、田んぼの作業を手伝っていたとき、この場所は五郎兵衛用水をつくったあの市川五郎兵衛さんの苗間だったと聞かされたことから。意外な事実を発見できる古いものへの関心は高まった。「文化遺産の魅力は、そこに歴史を証明する事実があるという



こと」と清水さん。

佐久市の文化財には、建造物や寺院、神社、石仏などのほかに、樹木なども含み幅広い。とりわけ仏教文化にかかわるものが多いのも特徴で、仏教とのかかわりの深さを知ることができる。また、佐久市は埋蔵文化財の発掘も盛んで、最近では、弥生時代としては国内最大級の竪穴式住居跡が検出された西近津遺跡も話題になった。

また群馬県で多く見られる埴輪が佐久で出土したり、山梨県の地名が入った鉢が見つかったり、周辺地域との交流を知ることできる。文化遺産は、言葉を持たないが実に雄弁で、さまざまなことを伝えてくれる。

文化遺産の保護は、歴史を知るとともに、後世へ継承していくという義務がある。つくるのが人間ならば、それを守っていくのも人間なのだから。あまりに身近で、意外と見過ごしがちな、地域の宝、文化遺産を改めて見てみよう。今まで気づかなかった発見があるかもしれない。そして、佐久の先人たちの歴史やチカラを感じることができるはずだ。



貞祥寺

戦国時代
[佐久市前山]

文 化 遺 産
CULTURAL HERITAGE

貴重な文化財の宝庫
佐久の名刹

戦国時代の大永元年（1521）、前山城主・伴野貞祥公が、祖父光利と父光信の追慕のため、叔父の節香徳忠禪師を武蔵国から招聘して開山した。

佐久の代表的な古刹で、貴重な建造物や、美しい苔や樹木など、長野県の郷土環境保全地域にも指定されている。建造物の中でも、三重塔、惣門、山門は県宝。山門は寛文12年（1672）に、小泉三右衛門、重右衛門によつて、建立されたもので、建築時資料が現存する。この山門には、四天王（持国天・増長天・広目天、毘沙門天）のうち「持国天」と「増長天」の2像が、迫力のある生き生きとした表情で構えている。山門より古い時代のものとされており、四天王を仁王像として用いたものは少なく、佐久では貞祥寺だけだ。また、四天王だけに、他の2つ（広目天、毘沙門天）の存在も気になるところだが、これは謎に包まれたまま。

三重塔は、明治3年、小海町松原湖の神光寺（慶応4年廃寺）から移築したもので、「見返りの塔」と呼ばれる青木村の国宝・大法寺にも引けをとらない美しさがある。帰り際、何度も振り返ってしまったにつけ、やはり「佐久の見返りの塔」と呼んでもいいだろう。

文 化 遺 産
CULTURAL HERITAGE

三河田大塚古墳

古墳時代 [佐久市三河田]



佐久のピラミッド？
なぞ多き古墳

なぞが多い分、興味をかきたてられる文化遺産がある。それが佐久地方で最大規模の三河田大塚古墳だ。古墳時代後期につくられた高さ5m、径30mの円墳で、横穴式の石室は、安山岩の巨岩を用いて構築されており、昔の姿を残している。ただ、盗掘に遭っているのが、当時に納められていたものではない。この規模からすると、かなりの有力者と推測されるが、残念ながらなぞのままだ。とはいえ、この巨岩の積み上げを見るにつけ、エジプトのピラミッドがそうであるように、古の人たちの知恵と技術にも感心させられる。

文 化 遺 産
CULTURAL HERITAGE

北西ノ久保遺跡出土の埴輪

古墳時代 [佐久市岩村田]



古代の思想や生活が見えてくる

信州短期大学の建設に伴い、発掘調査が行われ、弥生時代中期から平安時代にかけての住居址や古墳が発見された。その中に、巫女や農夫といった人物、動物など26個体の埴輪があり、当時の思想や生活を知ることができる。馬の埴輪からは、特にこの時代、馬が人間の生活に欠かせないものだったことがうかがえる。長野県は埴輪の出土が少ない地域で、これだけまとまって出土したのはここだけだ。一方、群馬県は数多く出土していることから、佐久は隣接している上州側との交流や影響を受けていたことを示している。

文 化 遺 産
CULTURAL HERITAGE

中山道望月宿・茂田井間の宿

江戸時代 [佐久市望月・茂田井]



江戸情緒が残る
宿場の街並み

茂田井間の宿は、望月宿と芦田宿の間の宿としてにぎわった。老舗の酒蔵や土蔵造りの町並みが残り、そこを歩けばタイムスリップしたような気分を味わえる。江戸時代的情绪が残る町並みは、美しくもあり、山田洋次監督の映画「たそがれ清兵衛」のワンシーンにも使われている。ちなみにこの近くの畑に「清兵衛」の家のセツトが造られていた（現在は撤去）。また望月宿にある旅館は、市川崑監督の「犬神家の一族」の撮影に使われるなど、古くて情緒のある建物や町並みは、映画の世界から魅力的な場所になっている。

文 化 遺 産
CULTURAL HERITAGE

五郎兵衛用水跡

江戸時代 [佐久市望月・浅科]



佐久の米作りの
信念の農業用水路

もし五郎兵衛用水がなかったら……。現在のような広大な田園地帯はなく、ブランド米は生まれなかったに違いない。江戸初期、草原だった矢島原周辺に市川五郎兵衛が私財を投じて築いた農業用水路で、高度な土木技術によつて造られた。完成まで4年を要した大工事で、全長20kmにも及ぶ。昭和44年まで300年以上にわたつて、農民の命を繋ぐ用水路として活躍した。岩盤を掘って通した、掘貫（トンネル）を見ると、その工事の大変さやうかがい知ることができ、改めて先人の偉大な功績に感謝の念を抱くのである。



旧中込学校

明治時代〔佐久市中込〕

文化遺産 9

佐久人の心意気が生んだ
日本最古級の擬洋風建築物

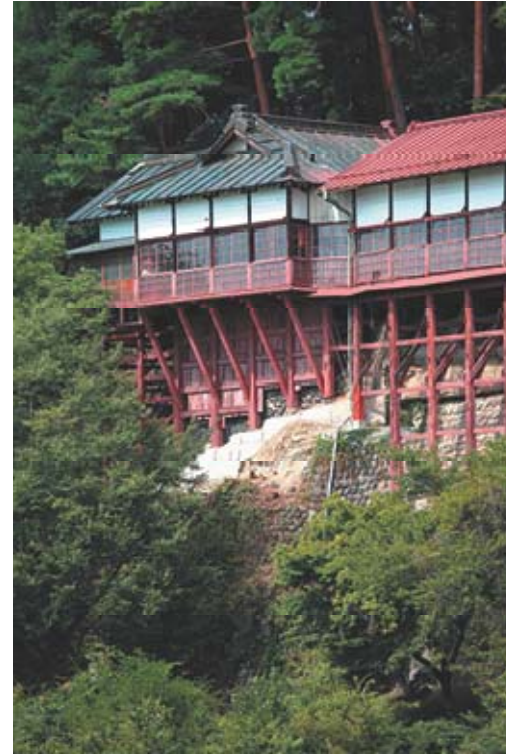
佐久のランドマークといえば、旧中込学校をおいてほかにない。

明治8年（1875）に建てられ、現存する学校建築では日本最古級の擬洋風建築物。その長い歴史とは対照的に、印象的なデザインの外観は、建築から130年以上経つ今でも色あせない。その歴史的価値は高く、国の重要文化財、国史跡に指定されている。

校舎の建築費用は、村内の篤志家の寄付によつてまかなわれており、当時の佐久の人たちの教育に対する情熱と心意気うかがえる。まさに佐久の人々のチカラでつくりあげた学校だったのだ。

当時、この建物を目にした人たちは、どんな思いで見ただろう。シンボリックな八角形の塔が空に突き出る斬新なシルエツトに、新しい時代への期待を抱いたに違いない。塔の天井にはステンドグラスがあり、時を告げる太鼓が吊るされ、「太鼓楼」とも呼ばれた。地元民の生活にも溶け込んでいた表れだろう。

もしも可能であるならば、タイムスリップして、この校舎で学んでみたい、そう思う人も少なくないはずだ。建物とともに、佐久の人の心意気はこれからもずっと受け継がれていく。



鼻顔稲荷神社

江戸時代〔佐久市岩村田〕

文化遺産 6

日本五大稲荷の一つ
佐久のパワースポット

「鼻顔」と書いて、「はなづら」と読む。佐久に暮らす私たちには、当たり前の名前だが、県外などの人が聞けば相当「ユニークな名前」に感じるはず。

京都の伏見稲荷神社からの御分霊を祀った神社で、400年以上前の永禄年間に創設されたといわれている。日本五大稲荷のひとつに数えられ、商業と養蚕の神として、広く信仰を集めている。

湯川沿いの断崖に寄り添うように建つ本殿は、京都の清水寺と同じ懸崖造りの建物。岩穴に鎮座する本殿は、独特の雰囲気を持つ。御姿殿に安置され鍵を咥えた稲荷狐と巻物を咥えた子持ちの稲荷狐や、本殿の稲荷狐などを見ていると、チカラをもらえる気がしてくる。まさに佐久市を代表するパワースポットといえる。

眼下を流れる湯川では、昭和時代初期には、ボート遊びが盛んに行われていた。今は、カモが優雅に泳いでいる。そんな時代の変化をお稲荷さんは見守り続けている。

ぴんころ地蔵

平成時代〔佐久市野沢〕

文化遺産 11



ぴん・ぴんころり
健康と長寿を願う

一度聞いたら忘れられないユニークな名前のお地蔵さん。健康のまま天寿をまとうとする「ぴん・ぴんころり」に由来し、健康と長寿を願う多くの参拝客が県内から訪れる。長寿のまち「佐久」の象徴的な存在。優しく微笑みながら、少し顔を傾け、ほおに右手を添えた姿が印象的で、参拝客の表情や心も自然と安らぐ。ぴんころ地蔵をモチーフにした商品づくりも盛んで、お守り、クッション、最中など多岐にわたる。お土産品としても好評で、訪れる人だけでなく、地元のお店も元気にする、何とも「利益のあるお地蔵さん」だ。

池田満寿夫陶壁画「佐久讃歌」

平成時代
〔佐久市立近代美術館（佐久市猿久保）所蔵〕

文化遺産 10



佐久の元気をうたう
巨匠が描いた「佐久」

鯉が力強く滝を上っていく様は、佐久人にとつて、どことなくうれしい。

高さ4m、幅3.7mの陶壁画。長野県を代表する芸術家・池田満寿夫氏の作品で、佐久市立近代美術館の入り口ロビーに飾られている。作品タイトルは「佐久讃歌」。鯉のチカラ強さ、勢いは、佐久の未来への期待を抱かせてくれる。そこで、その元気なチカラの象徴として、今回の本記念誌の表紙を飾っている。元気が欲しいとき、少し気持ちが沈んだとき、この陶壁画を見よう。不思議とチカラが湧いてくる。

C56型蒸気機関車

昭和時代〔佐久市中込〕

文化遺産 8



小海線の駆け抜けた
私たちの蒸気機関車

昭和10年、小海線全線開通とともに配置され、以後「高原のボニー」として親しまれ、小海線を駆け抜けた。昭和47年に鉄路からその姿を消したが、40年近く経つ今でも、その雄姿は多くの人の心に焼き付いている。今はその役目を終え、旧中込学校に隣接する成知公園で保存展示。静かに時を刻んでいる。黒光りする鉄の塊。間近でみると、その迫力は、「高原のボニー」とはかけ離れたイメージにも思える。あの雄姿をもう一度見たい、そんな夢を持っている人も多いことだろう。C56「本人」も、そう、思っているかもしれない。

龍岡城五稜郭

江戸時代〔佐久市田口〕

文化遺産 7



日本に二つしかない
星型の洋式城郭

「函館」とここ。日本に二つしかない星型の洋式城郭。築城は坂本龍馬が暗殺されたのと同じ江戸末期の1867年で、「日本最後の城郭建築」といわれている。現在は、御台所と星型のお堀が遺構として残る。そんな龍岡城にも苦難の歴史がある。完成からわずか4年で明治政府の廃藩置県の布告の下、廃城になり堀も埋められた。その後保存会ができた堀が復活したもの、太平洋戦争下では再び堀の水を切り、水田として使われたこともあった。時代に翻弄された城であった。本州唯一の自慢の史跡だが、惜しむらくは、「星型」を上空からでないこと確認できないことか。